

レビュー:

これぞフルモデルチェンジ——進化したLinkPlayer「AV-LS300DW」(1/4)

アイ・オー・データ機器からAVeL LinkPlayerの最新モデル「AV-LS300DW」が登場する。単に対応フォーマットの増加といった進化ではなく、ハードウェア、ソフトウェアともに新設計され、ポジティブな意味でよりAV機器指向のDMAIに生まれ変わった。

「AV-LS300DW」は、PCなどネットワークで接続された機器に保存されたコンテンツを再生できるネットワークメディアプレーヤーだ。アイ・オー・データ機器では「AVeL Linkplayer」としてシリーズ化しており、ハードウェアを含んだモデルチェンジとしては3代目の製品となる。



これが「AVeL LinkPlayer」の3代目となる「AV-LS300DW」。先代よりもむしろ「地味」にデザインになったが、他のAV機器とのマッチングは悪くない。価格は3万7000円で6月末に出荷を開始する予定だ

旧モデルの「AVLP2/DVDG」(「AVLP2/DVDG-2」はソフトウェアのアップデートのみ)と比較すると、対応フォーマットなどに大きな変更はないものの、「共通点はデコードチップのみ」といえるほど、ハードウェア、ソフトウェアともに刷新されている。なお姉妹モデルの「AV-LS300D」(3万3800円、7月中旬発売)はワイヤレスLAN機能のみが省略されており、出力機能なども含めてほかに相違点はない。



先代「AVLP2/DVDG」(上)との比較。幅や厚みはほぼ同じだが、奥行きはぐっと短くなった。前面パネルのデザインもログマークなどが控えめとなり、AV機器とのマッチングが良さそうだ

デザインは、大きく変更された。旧モデルが前面にミラーパネル採用するなど少々尖がったイメージだったが、本製品では黒の亚克力パネル+艶消しのシルバーと、DVDレコーダーなどにも良く見られるデザインに変更され、デザイン面でも一般的なAV機器との親和性を強く意識したようだ。操作ボタン類は、トレイ開閉ボタンのみを目立たぬように配置し、全体に極めてスッキリしている。



前面左側に電源ボタンと2つのUSBポート、文字表示も可能なディスプレイを配置。ディスプレイ部はメニュー階層などを表示するが、コンテンツ再生時は再生位置のみを表示する。表示を無効にすることもできる。DVDドライブ(左)は中央より少し右寄りに配置

リモコンも家電ライクなまったく異なるデザインに変更された。中央に大き目の4方向キー+決定キーを持ち、この周囲のキーだけでメニューや一覧操作を操作をほぼ完結できる。国内家電メーカーのテレビの基本操作も可能で、DVDレコーダーなどのリモコンと比較しても遜色ない機能と操作性を実現した。



本体同様に完全にデザインが刷新されたリモコン。中央部に利用頻度の高い機能が集中しており、親指の届く範囲内でほとんどの操作を行える

AV出力は、先代と比較するとアナログ音声出力が1系統削られた形になるが、代わりにHDMI出力が追加。HDMIはHDCPIにも対応しており、市販のコピーガードが施されたDVDビデオもD3/D4出力解像度にアップスケールして再生が可能だ。



映像はコンポジット/S端子(S2対応)/D端子(D4出力対応)、音声はアナログ1系統+光デジタル出力を装備し、これにHDMIがかわる

大きく変わった中身

	ネットワークメディアプレーヤー AVeL LinkPlayer AV-LS300DW	+D Select
特価(税込) ¥29,800		+D Select Shopで 購入する

この製品の 最新価格	平均販売価格: ¥28,527	ITmedia Shopping ショップ別 価格を見る
	最安値: ¥24,780	

2007/05/29 18:08:04現在

[坪山博貴, ITmedia]

レビュー: これぞフルモデルチェンジ——進化したLinkPlayer「AV-LS300DW」(2/4)

デザイン同様、先代モデルから大きく変更されたのが中身——つまりハードウェアだ。デコードチップこそ米SigmaDesignsの「EM8620L」から変更されておらず、対応フォーマットもあまり変わらない。しかし内部の基盤は新設計となり、デジタル系、アナログビデオ系、オーディオ系の回路を可能な限り分離して相互干渉を低減。さらにビデオ、オーディオ回路用に電源を分離生成している。これにシャーシの剛性を強化することで、オーディオ系への振動の悪影響を低減するなど、極めてAV機器的な手法で品質の向上を図った。

オーディオD/Aコンバータには、AV機器向けに開発されたパーブラウン(TI)の「PCM1793」を採用。192KHz/24ビットの処理能力と113dbというダイナミックレンジを持ち、数多くのDAコンバータをラインアップする同社製品の中でも「ハイパフォーマンス」「アドバンスドセグメント」に位置付けられるチップだ。これ以外にもオーディオ専用コンデンサの採用、ノイズ混入を防止するために前面のディスプレイをOFFする機能を備えるなど、音質へのこだわりはかなり強く、製品発表会の会場でも国内AV機器メーカー製のDVDプレーヤーやDVDレコーダーに匹敵する音質であることを強調していた。



発表会で公開された基板。それだけの自信作ということだろう

アナログ出力される音質に関しては、数値化したり、絵として伝えることが難しい。幸い、今回は比較対照として先代の「AVLP2/DVDG」が手元にあったため、直接聴き比べてみることにした。アナログ音声出力を一般的なオーディオアンプにダイレクトに接続し、これに密閉型ヘッドフォンを繋いで音楽ODとPVの収録されたDVDビデオを再生した。さすがに“明白に違う”とはまではいえないが、繰り返し聴いているとトラック間の静寂性や全体のフラット漢という点で本機に分がある印象だ。一時停止状態にして音量を上げてみると、明らかに電氣的ノイズが少ない。正攻法で音質改善に取り組んだメリットが感じられた。

ビデオ出力はHDMI搭載が大きな特徴だが、D端子出力でもローパスフィルタを、D1/D2/D3/D4の出力設定に合わせて最適化。使用しない帯域のノイズを適切に遮断する

ことで、D端子接続時でも、ノイズの少ない映像出力を可能にしている。HDMI入力を持たない大型テレビを所有しているという人もまだまだ多いだろうから、意味の大きな改善点といえるだろう。

下の写真は、WMVで1080i収録されたサンプルビデオをフルHD解像度の液晶テレビで再生し、デジタルカメラで撮影したものだ。



いずれもD4端子で接続した。左が新製品、右は旧製品。ロゴの白い部分に見える色ムラは、液晶パネルをデジタルカメラで撮影した場合に良くある症状なので、無視して頂きたい

D4出力では、ロゴの縦方向のエッジ部分で違いが顕著であり、明らかに本機のほうがドット妨害のような症状が少なく、エッジがシャープだ。

次に本機のHDMI出力と「AVLP2/DVDG」のDVI出力。少々変則ながらDVI-HDMI変換ケーブルを用い、「AVLP2/DVDG」のDVI出力とテレビのHDMI入力を接続して1080i出力してみたところ、原因は分からないがフィールドが1ラインずれて重なっているような症状になり、ロゴは縦方向に太く、ジャギーも目立つ結果になってしまった。750P出力に切り替ええると、この症状は治まったし、原因がテレビなのか、AVLP2/DVDGなのかは分からない。ただ、やはりHDMIを搭載した本機のほうが安心感はある。



左が本機のHDMI接続。右は「AVLP2/DVDG」のDVI出力をHDMIに変換して出力したものの。右は縦解像度が落ちてしまったような表示になっている

S出力でも比較してみたところ、D4出力と似たような傾向がみられた。像感に影響を及ぼすほどではないが、ロゴの部分の縦方向のエッジは明らかにシャープでクリア。比較は一例でしかないが、新製品が画質に拘ってつくられたものであることは結果として表れた。



左が本機のS出力、右は「AVLP2/DVDG」

より家電ライクに、機能的な向上も果たした操作性

	ネットワークメディアプレーヤー AVeL LinkPlayer AV-LS300DW 特價(税込) ¥29,800	 +DSelect Shopで 購入する
---	---	---

この製品の 最新価格	平均販売価格: ¥ 28,527	ITmedia Shopping ショップ別 価格を見る
	最安値: ¥ 24,780	

2007/05/29 18:08:04現在

前のページへ 1 2 3 4 次のページへ

レビュー:

これぞフルモデルチェンジ——進化したLinkPlayer「AV-LS300DW」(3/4)

前のページへ 1 2 3 4 次のページへ

デザインやハードウェア以上に大きな変更となったのが操作性、つまりソフトウェアだ。冒頭でも触れたが、上下ボタンで機能やコンテンツの選択、左右ボタンで階層移動が基本となり、ソニーの「スゴ録」などを彷彿とさせるユーザーインターフェースになった。また「戻る」キーの挙動もブラウザのように「直前の画面」ではなく、あくまで階層を遡る。より自然な動作だ。



ソフトウェアは10フィートUIとなりデザインも洗練された。設定やその場に応じて利用できる付加機能はリモコンのツールボタンを押すとポップアップする形式に変更されている



フォルダはアルバムという扱いになり、「全てのビデオ」を選択することでフォルダ階層を無視して全てのコンテンツを一覧可能。先代モデルにあった一覧性重視の「HDモード」はなくなったが、リモコンの「前」「次」でページスクロールが行える。操作に対するレスポンスも良好だ。なお、一覧の右側に赤いマークのあるコンテンツは、レジューム再生が可能なことを示している

旧モデルでもサーバソフトに「Advanced Server」を用いた場合に利用できたレジューム再生の機能も拡大された。最新の10件の動画コンテンツに対して有効になり、再生位置を記憶していることを一覧でも確認できる。サーバソフトに「Dixim」を利用している場合に限定されるが、本製品の電源をOFF/ONしても有効であるなど、実用性は高い。

基本操作もより充実した。DivX、WMVといった動画ファイルでも、「早戻し」や「早送り」が快適。2x/4x/8x/20x/50xという選択可能な速度に対し、ほぼリアルタイムに動作するようになった。またDivXでは初回動作時に発生していたバッファリングの時間もなくなっている。さらに「スキップ」ボタンを使った15秒スキップも、MPEG、DivX、WMVすべてでほぼ正確に動作するようになった。プライベートルームでPC録画したテレビ番組を本機で再生するような場合でも、CMスキップ操作が楽だ。



静止画はサムネイル一覧が可能。表示中にリモコンの再生ボタンを押すとスライドショーに切り替わるなど、UIも分かりやすい

音楽再生機能にも専用画面が表示され、より“らしい雰囲気”になった。再生中でも同一画面の一覧内なら再生を停止せずにフォーカスを移動し、次に再生する曲を選択できる。画像再生もサムネイル一覧となり、より一覧性が高くなった。D3/D4出力(HDMI含む)では最大1280×780ピクセルでの表示が可能だ。

NTFS、マルチパーティションにも対応するUSB

	ネットワークメディアプレーヤー AVeL LinkPlayer AV-LS300DW	
<p>特価(税込) ¥29,800</p>		<p>+DSelectShopで 購入する</p>

<p>この製品の 最新価格</p>	<p>平均販売価格: 28,527</p>	<p>ITmedia Shopping ショップ別 価格を見る</p>
	<p>最安値: 24,780</p>	
<p>2007/05/29 18:08:04現在</p>		

前のページへ 1 2 3 4 次のページへ

[坪山博貴, ITmedia]

レビュー:

これぞフルモデルチェンジ——進化したLinkPlayer「AV-LS300DW」(4/4)

前のページへ [1](#) [2](#) [3](#) [4](#)

USB接続でのコンテンツ再生機能も大幅に強化された。マストレージ接続に対応する点は旧モデルと変わらないが、本機ではFAT/FAT32だけでなくNTFSにも対応。さらにマルチパーティションもサポートするため、今時のPCで利用しているHDDをそのまま接続し、保存されているコンテンツを再生できる。



USB接続のHDDとメモリーカードリーダーを接続したところ(左)。複数のUSBデバイスを接続した場合でも任意のデバイスを選択してコンテンツの再生が行える(右)。また複数パーティションにも対応しており、USB接続HDDの利用制限はほとんどなくなった

USB接続ストレージ内のコンテンツ再生で残念なのが、静止画のサムネルー一覧が行えないこと。メモリーカードリーダーやデジカメをUSB接続しての静止画再生は結構使う人が多そうな機能だけに残念だ。

またUSB接続のストレージに保存したDVDビデオのISOイメージの再生にも対応する。ただし、DVDビデオを構成するファイルのフォルダからIFO/VOBファイルを指定して再生することはできないようだ。このあたりは、DVDレコーダーなどでダビングしたDVDメディアをISOイメージとして保存し、再生するといった使い方を想定しているのだろう。



DVDビデオのISOイメージは、ファイルを選択するとそのままDVDビデオとして再生できる。もちろんメニュー操作もサポートする(左)。連ドラなどを複数枚のDVDビデオとしてダビングしている場合など、HDDにそのままISOイメージを放り込んでしまえばどんどん再生が行える(右)

「AV-LS300DW」は、最新のLinkPlayerであると同時に、変わりつつあるDMAの位置付けにも対応した製品だ。先代モデルが登場した頃は、DMAはどちらかといえばマニアックな需要に対応する製品だったが、現在ではいわゆる“テレパソ”の多くにメディアサーバ機能が搭載され、そのほとんどがDLNA準拠となっている。つまり、ここ1~2年にテレパソを購入したユーザーであれば、本製品をLANに接続するだけでPC内のコンテンツにアクセスできる状態ということだ。

またDVDレコーダーでもDLNA準拠のサーバ機能を持つ製品が増加するなど、DMAの活躍の場は確実に広がりがつある。そこで良くも悪くもマスマーケット指向へ方向転換したのが本機なのだろう。

基本的には先代モデルからの正常進化であり、画質、音質ともに改善が図られているし、操作性もブラウザベースではなく、一般的になった。これらの点は、モデルチェンジにおける明らかにポジティブな面だ。レスポンスに関しては先代モデルから特に良好になったという印象はないし、情報量重視のHDモードもなくなり(10フィートGUIのみ)、リモコンのボタン操作でショートカットできる機能は減っている。また同社のテレビチューナーユニットを制御する機能が削減された。つまりマニアックな部分が軒並み排除されてしまったともいえ、その意味でネガティブな面も少なくはない。

もっとも、その先代モデルを所有している筆者でも、買い換えたいと思える製品に仕上がっているのは事実だ。確かにPC周辺機器ならではの機能は削減されてしまったが、操作体系が一般的となった点は非常に意味が大きいし、予定されているDTCP-IP対応を果たせばデジタル放送対応のDVDレコーダーで録画したハイビジョン映像をハンドリングすることも可能になる。そのとき、画質/音質の改善が大きな意味を持ってくるだろう。

関連記事



中身は別物? HDMIを備えた「AVeL LinkPlayer」新登場

アイ・オー・データ機器は6月23日、ネットワークメディアプレーヤー「AVeL LinkPlayer」の新

製品2モデルを発表した。DLNA正式対応にくわえ、新しいGUI、HDMI端子の搭載などが主な特徴だ。6月末に発売する。



DLNA対応の新「AVeL リンクプレーヤー」登場——既存モデルのアップグレードも

アイ・オー・データ機器は、ネットワークメディアプレーヤー「AVeL リンクプレーヤー」の新製品2モデルを6月下旬に発売する。新たにWindows Media DRM 10やWMA9 profに対応。DLNA準拠のデジタル家電やPC用サーバソフトとも連携できるようになった。



コストパフォーマンスの高さが魅力～新「AVeL LinkPlayer」

アイ・オー・データ機器、バッファローと発表が相次いだのがWindows MediaVideoにも対応するネットワーク対応メディアプレーヤー。「メディアプレーヤーはWMV対応待ち」と心待ちにしていた人も多いだろう。2製品とも試作機ながら評価する機会を頂いたので、まずはアイ・オー・データ機器の新「AVeL LinkPlayer」をチェックしていこう。

関連リンク

ニュースリリース(アイ・オー・データ機器)

製品最安値比較サイト:ITmedia +D Shopping

こだわりアイテムがすぐ買える:+D Select

	ネットワークメディアプレーヤー AVeL LinkPlayer AV-LS300DW 特価(税込) ¥29,800	 +D Select Shopで 購入する
---	--	--

この製品の 最新価格	平均販売価格:  28,527	 ショップ別 価格を見る
	最安値:  24,780	

2007/05/29 18:08:04現在

[坪山博貴, ITmedia]